

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるなか、輸送機械、生産用機械、汎用機械などが減少しており、弱含んでいる。雇用情勢は、改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直しの動きに一服感がみられる	弱含んでいる	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	改善しつつある	

設備投資	4年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	4年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	
企業収益	4年度は増益見込みとなっている（全規模ベース）	4年度は増益見込みとなっている（全規模ベース）	
企業の景況感	「上昇」超となっている（全規模・全産業ベース）	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額、ホームセンター販売額は前年を上回っている。家電販売額は前年を下回っている。乗用車の新車登録届出数は、小型車が前年を下回っているものの、普通車、軽乗用車は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

宿泊や飲食サービスなどは、持ち直している。

このように個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加に伴い土産の菓子・名産品が好調であるほか、卒業式・入学式向けの婦人フォーマルが好調となっている。物価上昇に伴う節約志向が強まっているものの、富裕層の購買意欲は変わらず、時計・宝飾品は引き続き好調。(百貨店、中堅企業)
- 内食需要の減少や、値上げラッシュに伴う買い上げ点数の減少・消費者の購買意欲の低下がみられるものの、客単価の上昇により売上高は増加している。(スーパー、大企業)
- 行動制限の緩和に伴う人流回復により客数は増加傾向であり、飲料水、菓子、パンなどの販売が伸びており、売上は増加している。(コンビニエンスストア、中小企業)
- 物価上昇により消費マインドは低下気味であるものの、風邪薬のほか、花粉飛散により関連医薬品の販売が好調であったことから、売上は増加している。(ドラッグストア、中堅企業)
- メーカーからの車両供給台数が持ち直していることから、新車登録台数が足下で回復し、売上も前年比で増加しているが、当面は車両供給が不安定な状態が続くと見込んでいる。(自動車販売、中小企業)
- 国内旅行は全国旅行支援の効果から、旅行取扱高はコロナ禍前の水準を上回っている。(旅行、中堅企業)
- 年末以降、東南アジアの富裕層のインバウンド客が増加したほか、オーストラリアからのスキー客の長期宿泊も戻ってきており、客数・売上高ともに前年を上回っている。(宿泊、中小企業)
- コロナからの回復やインバウンド需要により客数が増加していることに加え、3月は卒業式や歓送迎会等の行事もあって売上は増加している。(飲食サービス、中小企業)

### ■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産を業種別にみると、一部に供給面での制約の影響がみられるなか、輸送機械、生産用機械、汎用機械などが減少しており、全体としては、弱含んでいる。

- 車載半導体不足は一時期緩和したものの、年明け以降、再び不足するなど不安定な状況が続いており、これに伴って自動車の生産量が減少している。(輸送機械、大企業)
- 自動旋盤は、完成車メーカーの減産の影響により自動車向けの受注が低調であるほか、パソコンやスマホが在庫調整局面に入ったことによりIT・電子部品向けも低調であり、生産量は減少している。(生産用機械、大企業)
- 自動車用エンジン部品は、国内完成車メーカー向けが回復しているものの、中国向けは年末から1月にかけて低迷し、2月以降の生産量も元の水準まで戻っていない。(汎用機械、大企業)

なお、非製造業では、リース業の取扱高及び情報サービス業の売上高は前年を上回り、広告業の売上高は前年を下回っている。

### ■ 雇用情勢 「改善しつつある」

有効求人倍率は上昇し、新規求人数は増加しているほか、完全失業率は改善している。このように雇用情勢は、改善しつつある。

- 常に人手が不足していることから、募集にあたっては、年間の休暇日数を増やすなど待遇改善を行っているほか、非正規社員を積極的に正社員へ登用するなど人材確保に努めている。(製造業、中小企業)
- コロナ禍において従業員が大幅に減少しており、賃金面の改善でつなぎ止めを図りたいところだが、足下の経営状況を踏まえると大幅な賃上げは難しい。(宿泊、中小企業)

### ■ 設備投資 「4年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、石油・石炭などで減少見込みとなっているものの、化学、情報通信機械などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信業などで減少見込みとなっているものの、金融業、保険業、不動産業などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 次世代に向けた新規製品の開発を進めるため、積極的な投資を行っていることから増加見込み。(化学、大企業)
- 収益基盤を強化するため新規ビルの開発を進めており、前年度よりも案件数が増加するとともに物件の規模も大きくなっていることから増加見込み。(不動産、大企業)

### ■ 企業収益 「4年度は増益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、化学などで減益見込みとなっているものの、食料品製造業などで増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売業などで減益見込みとなっているものの、運輸業、郵便業などで増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 大企業、中堅企業は「下降」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が拡大している。  
先行きについては、全規模・全産業ベースで5年4～6月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家、貸家は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

➢ 注文住宅は、建築資材の高騰を受け、住宅の販売価格を上げたところ、昨年秋以降受注が落ち込んでおり、足下も低調な受注状況が続いている。(不動産、中小企業)  
➢ 分譲マンションは、鉄鋼などの資材価格の高騰に伴って販売価格に転嫁しているものの、都心やその近郊のマンション需要は衰えておらず、販売は堅調に推移している。(不動産、大企業)

■ **公共事業** 「前年を上回っている」

- 前払金保証請負金額をみると、独立行政法人等は前年を下回っているものの、国、都県、市区町村が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

■ **輸出** 「前年を上回っている」

- 通関実績(円ベース、東京税関と横浜税関の合計額)でみると、輸出は前年を上回っている。  
なお、輸入も前年を上回っている。

■ **倒産** 「件数、負債総額ともに前年を上回っている」

3. 各都県の総括判断

	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
埼玉県	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱い動きとなっている。雇用情勢は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。
千葉県	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。
東京都	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費及び産業活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善している。
神奈川県	持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられる中、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
茨城県	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっているが、個人消費、雇用情勢は緩やかに持ち直している。
栃木県	供給面での制約の影響が残るものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響が残るものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響が残る中、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
群馬県	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる。雇用情勢は、足踏みの状況にある。
新潟県	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、改善しつつある。
山梨県	持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。
長野県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は、改善しつつある。